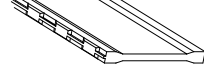
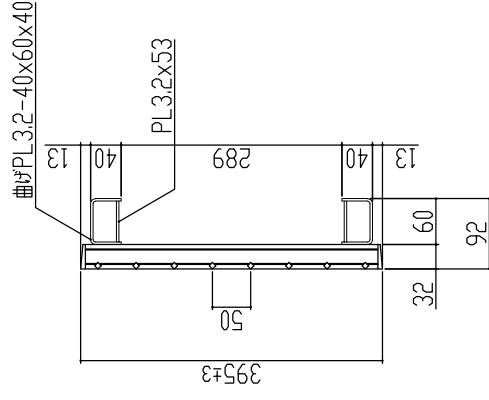
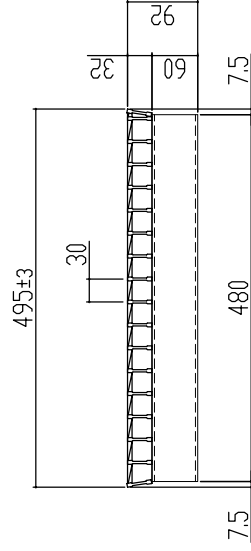


⇄ 車輛進行方向 (側溝)



本体重量 13.4kg

主部材詳細図 表面処理 本体は溶融亜鉛メッキ仕上げ (JIS H8641)

訂正年月日 標準製作図面 訂正年月日 訂正年月日 訂正年月日	検査 山口	承認印 平元	承認印 山口	承認印 松本	図名 図番	株式会社 <b>マキテック</b> MK駐輪事業部
	訂正番号	訂正年月日	訂正事項	訂正者	承認印 平元	承認印 山口
	製作図面	検査 山口	承認印 平元	承認印 山口	承認印 松本	承認印 松本
	特注図面 検査図面	検査 山口	承認印 平元	承認印 山口	承認印 松本	承認印 松本
図名 LNV95-325-395/495TX T-14					図番 MKG-L-310-2	高さ上げ自由勾配側溝用 (ハイテン) グレーチング 溝幅300用 並目ノンスリップ

# グレーチング強度計算書



1 仕 様	品名	LNVS95-325-395/495TX
	製品寸法	395x495x32+60
	主部材	I-5 × 3 × 32
	断面係数	Z = 0.794 cm <sup>3</sup>

2 設 計 条 件	荷重条件	T-14	支点間距離	L = 289
	後輪一輪荷重	P = 56000 N	衝撃係数	i = 0
	許容応力	$\sigma_b = 320$ N/mm <sup>2</sup>	車両進行方向	主部材に対し、縦断
	主部材ピッチ	O = 30 mm		
	接地面積	a mm × b mm = 200 mm × 500 mm		

3 強 度 計 算	1. ベアリングバー1本当たりの単位荷重: $\omega$ (N/mm)を求める。			
	$\omega = \text{後輪1車荷重} \times (1 + \text{衝撃係数}) \times \text{ピッチ} / \text{接地面積}$ より			
	$\omega = 56000 \times (1 + 0) \times 30 / 100000$			
	$\omega = 16.80$ (N/mm)			
	2. ベアリングバーの最大曲げモーメント: M (N・mm)を求める。			
	$M = \omega \times L \times L / 8$ より			
	M = 175394.1			
	M = 175,394 (N・mm)			
	3. 曲げ応力度: $\sigma_b$ (N/mm <sup>2</sup> ) を求める。			
	$\sigma_b = M / Z$ より			
$\sigma_b = 175,394.1 / 794.000$				
$\sigma_b = 220.90$ (N/mm <sup>2</sup> )				
従って、許容応力 $\sigma_b = 320$ (N/mm <sup>2</sup> ) に対し、				
<u><math>220.90</math> (N/mm<sup>2</sup>) <math>\leq</math> <math>320</math> (N/mm<sup>2</sup>)</u>				

4 総 括	上記の計算式により、1項目の仕様で、 2項目の設計条件に対し十分な強度を保持致します。
-------------	--